

岐阜県教販通信

No.0027

GIKYO HAN TIMES

2023 年 4 月発行

新しい学校教育、新しい学習の始まり

当社は岐阜県の全小中高校に 100 年以上教科書を供給し続けてきまして 2021 年度に、「スクーライブラリー」進呈させて頂きました。電子図書によって新しい読書の機会を与えることで深い学びにつながる一助となればと思います。本年度は県教委の後援の下 7 月 20 日～23 日まで児童図書展示会を当社で行います。2 万点にも及ぶ児童図書からの選書は圧巻です。学校図書館の充実に役立つものと考えておりますのでご参加のほう何卒宜しくお願い致します。又、第三回本の日読書感想文コンクールも今年も開催します。何卒宜しくお願い致します。



寺脇 研 氏

寺脇研(てらわき けん、1952 年～)元文部官僚。星槎大学大学院教育学研究科客員教授。官僚時代には文部省 NO.1 の論客でなし、ゆとり教育の広報を担った。福岡県福岡市出身

やっと穏やかな新学年が始まった。旧年度の卒業式が対面、マスク任意で行われたのに続き、新年度の入学式も同じ形を取ることができた。このまま元の学校生活の姿へと戻っていけるといいのだが。政府には、油断しないで感染症対策を全力で続けてもらいたい。景気対策や観光需要も無視はできないだろうが、何より重要なのは国民、特にこれから育てこの社会を支えてくれる子どもたちが安心、安全な暮らしを保障されることなのである。

さて、3 年間に続いたコロナ禍の異常な状況が続く中で、新学習指導要領が実施された。令和 2 年度から小学校、3 年度から中学校、4 年度から高等学校。学校現場は、コロナ対策に追われる大変な苦勞の一方で、新指導要領を定着させるために努力を重ねてくださったと思う。

おかげで、今回の新指導要領は、さしたる混乱も批判も招くことなくスムーズに実施されている。月 1 回の学校週五日制、小学校の生活科、中高の家庭科男女必修、高等学校の単位制や総合学科が導入された 92 年度実施(小学校。便宜上小学校実施年度で表記する)、「ゆとり」を掲げて完全学校週五日制、総合的な学習の時間が始まり、それに伴う「学力低下」懸念で揺れた 02 年度実施、「脱ゆとり」と騒がれた 11 年度実施の時と比べれば、今回は非常に順調に移行できた。

文部科学省で 92 年度、02 年度の新指導要領を担当し、その後も指導要領の動きを注目してきた者として、とてもうれしく感じる。1984 年、当時の中曽根康弘総理大臣直屬の重要な機関として設置された「臨時教育審議会」が、3 年間の徹底した議論の結果として 87 年に出した最終答申を受け、「教育」を量的に拡大する路線から「学習」を質的に深化させる路線への方向転換を図ってきた流れが、35 年間を経て、ようやく完成したのである。

今回の指導要領のキャッチフレーズである「主体的、対話的で深い学び」は、臨時教育審議会の議論から始まった考え方の集大成と言っていい。総合的な学習の時間に代表されるこうした学びが最も

遅れていた高等学校も、探究型学習をキーワードに急速に学びの形を変えている。

高等学校の遅れの原因となっていた、細かい知識を問う従来型から抜け出せない大学入試が、遂に変化を見せているのも大きい。「何を学んできたか」を受験生自身がプレゼンテーションする AO 入試が、ほとんどの大学で定着してきた。

20 年度から 3 年間かけて、小学校、中学校、高等学校で行われてきた新指導要領実施が行き渡り、同時に 3 年間続いた鬱陶しいコロナ禍が去ろうとしている今春の桜は、ひときわ美しく感じられる。

新しい学校教育、新しい学習の始まりを感じさせる春だ。対面授業が完全に復活し、児童生徒の学習活動の自由が従来通りに広がる今年度、コロナの暗雲晴れるのと同時に、日本の学校教育の新しいスタートを切ろうではないか。学校現場を預かる先生方の、一層のご活躍を期待して、これからの学教教育に期待しているところだ。